

令和6年度熊本市小英研 研究部提案について

1 研究主題

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造を通して～

2 研究主題について

(1) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童」の具体像

本研究における目指す児童の主体的な姿とは、思考を働かせながら獲得した知識及び技能を生かし、自ら設定した課題解決に向けて、見通しをもって、言語活動に粘り強く取り組む姿である。また、その粘り強い取組を行う中で、試行錯誤しながらも自らの学びを調整し、目的や場面、状況等に応じたコミュニケーションを図る姿である。

(2) 「互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造」の具体像

小学校外国語教育における言語活動とは、「実際に英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合う」活動である。本研究では、児童が自ら言語活動に意欲的に取り組むことができるように、指導者が様々な工夫を考え、授業を創造していくことを目指していく。

3 研究の仮説

外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程や指導と評価の一体化の方法及び学年間や他教科等とのなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。

4 研究の視点

(1) 外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程の工夫

- ・児童が取り組みたくなる課題設定の工夫
- ・単元など内容や時間のまとまりを見通した授業づくり
- ・目的・場面・状況等を意図した必然性のある言語活動の設定

(2) 指導に生かす評価の工夫

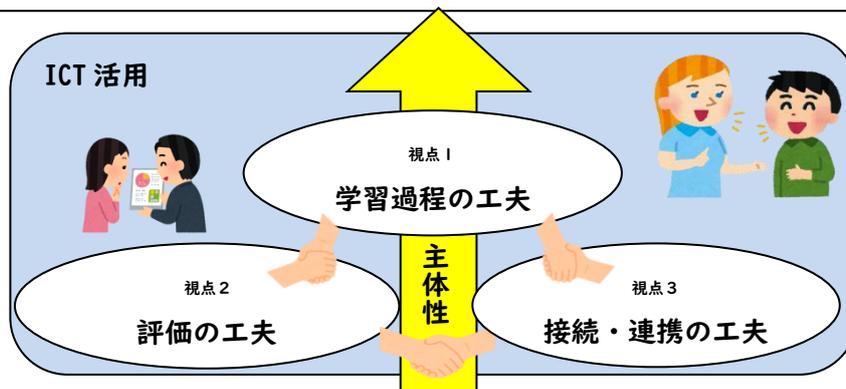
- ・児童が自分の学びを実感する振り返りと（教師、児童から児童への）フィードバック、および評価を指導者の指導改善に生かす工夫
- ・高次の学力を見取るルーブリックなどの作成と活用

(3) なめらかな接続・連携の工夫（外国語活動から外国語科へ・中学年から高学年へ、小学校から中学校へ）

- ・学習内容、学習方法、教材の系統性、および児童の学びの指導者における共有
- ・他教科等や単元間等の横断的な学習の充実
- ・児童が既習事項を駆使し、自らの言語活動に活用できるような指導の工夫
- ・学習者用デジタル教科書等のタブレットを活用した個別最適な学びとコミュニケーション活動等の協働的な学びの一体的な充実

5 構想図

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造を通して～



【仮説】外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程や指導と評価の一体化の方法及び学年間や他教科等とのなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。